

	東電評価	原子力規制庁の見解（評価の限界）
<p><b>地震荷重</b></p> <p>※下記個別評価に共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペDESTALの損傷が判明する前に行われたIRIDの建屋・機器連成地震応答解析の結果等を適用</li> <li>・インナースカートに負荷される地震荷重を考慮する上では、ペDESTALが損傷するとペDESTAL基礎部に負荷される荷重は減少するため、上記の適用は（不確かさはあるが）保守的</li> <li>・PCVスタビライザに負荷される地震荷重を考慮する上では、水平方向の荷重はピン支持の状態で最大になるため、上記の適用は（不確かさはあるが）保守的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペDESTAL損傷等により剛性低下した場合、ペDESTAL、RPV等の固有周期が変動し、これにより地震応答荷重が変動する可能性があり、IRIDの建屋・機器連成地震応答解析の結果等を用いることが保守的と判断できない。</li> <li>・一方、ペDESTALの損傷等の全容は判明していないため、適切なモデルにより建屋・機器連成地震応答解析を行うことは現時点で困難。</li> </ul>
<p><b>熱履歴・物性値（その他入力値）</b></p> <p>※下記個別評価に共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造部材の事故時到達温度等の熱履歴、縦弾性係数等の物性値は多くが推定値であり、一部に不確かな値あり</li> <li>・腐食量等のその他の入力値についても、一部に不確かな値あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故時の熱履歴等については想定に頼らざるを得ず、妥当性について判断することは困難。</li> <li>・入力値には不確かな値が多く含まれており、それに基づいた耐震評価の妥当性を判断することは困難。</li> </ul>
<p><b>インナースカート</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震により発生する荷重をインナースカートは支持可能</li> <li>・以下の項目に不確かさあり <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ペDESTAL上部構造物の重量</li> <li>✓ 事故時の熱履歴</li> <li>✓ 事故時の熱履歴を反映した許容応力</li> <li>✓ 地震荷重 <ul style="list-style-type: none"> <li>ペDESTAL基礎部曲げモーメント／せん断力</li> <li>ペDESTAL上部構造物鉛直方向地震応答加速度</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記で示したように、地震荷重・熱履歴等に不確かさを多く含んでおり、耐震評価として妥当性について判断することは困難。</li> <li>・特に評価に用いる地震荷重については、上記「地震荷重」で示したように保守性を判断できない。</li> </ul>
<p><b>RPVスタビライザBSW</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・RPVスタビライザについて、構造によりRPVとBSWの熱伸び差が吸収されるため、事故による熱履歴を経た後も健全な状態が保たれる</li> <li>・既存のIRIDの耐震評価において、地震による発生応力が許容応力に対して十分裕度があることが確認されているため、改めての耐震評価は不要（BSWについては、許容応力に最小引張強さを適用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の耐震評価に用いられている地震荷重について、上記「地震荷重」で示したように保守性を判断できない。</li> </ul>
<p><b>PCVスタビライザ</b></p>	<p>&lt;事故による熱履歴の影響&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BSWとPCVの鉛直方向の熱伸び差の影響で変形するが、温度低下により元の形状に戻り、大きくは変形しない。</li> <li>・高温時の熱伸びが温度低下に伴い圧縮されるため、残留応力が残る。</li> <li>・以下の項目に不確かさあり <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事故時の熱履歴を経た部材寸法・腐食量</li> <li>✓ PCVスタビライザの縦弾性係数</li> <li>✓ BSWの線膨張係数</li> <li>✓ 事故時到達温度（BSW／PCV）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不確かさを含む定性的な評価であり、妥当性について判断することは困難。</li> <li>・事故時の熱履歴等については想定に頼らざるを得ず、現時点で現場の状況を確認することも難しいため、事故時のPCVスタビライザの挙動及び現在の形状について、正確に把握することは困難。</li> </ul>
	<p>&lt;水平方向の支持&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震により発生する水平方向の荷重をPCVスタビライザにより支持可能</li> <li>・事故時の熱履歴に起因する変形及び残留応力については把握できないため、PCVスタビライザが健全であるとして評価</li> <li>・以下の項目に不確かさあり <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ペDESTAL上部構造物の重量</li> <li>✓ 事故時の熱履歴</li> <li>✓ 事故時の熱履歴を経た部材寸法・腐食量</li> <li>✓ 事故時の熱履歴による残留応力</li> <li>✓ 地震荷重 <ul style="list-style-type: none"> <li>ペDESTAL上部構造物水平方向地震応答加速度</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタビライザが健全であるとした場合の評価であり、現在のスタビライザの状態を反映した評価ではない。</li> <li>・現状のスタビライザの支持力を、事故時熱履歴による変形の可能性等も考慮した上で、定量的に評価することは困難。</li> <li>・また、上記で示したように、地震荷重・熱履歴等に不確かさを多く含んでおり、耐震評価として妥当性を判断することは困難（特に評価に用いる地震荷重については、上記「地震荷重」で示したように保守性を判断できない）。</li> </ul>